

第28回赤穂市民病院の医療を考える懇談会 議事録

1. 日時 令和7年1月23日(木) 15時00分～16時00分

2. 場所 赤穂市民病院 講義室

3. 出席者

(市民団体代表)	赤穂市老人クラブ連合会	会長	福本 俊弘
	赤穂市消費者協会	副会長	金井 貴子
	赤穂市労働者福祉協議会	理事	植木 猛範
(保健医療関係者等)	赤穂市医師会	会長	渡邊 節雄
	相生・赤穂市郡歯科医師会	副会長・赤穂支部長	赤井 高之
	赤相薬剤師会	会長	寺田晋一郎
	関西福祉大学	事務局次長	末政 圭介
	行政	健康福祉部長	松下 直樹
(赤穂市民病院)	高原病院事業管理者、林院長、高尾院長代行、高原副院長、岸本副院長、高木看護部長、坂本副看護部長、高瀬薬剤部長、木村診療放射線技師長、山本臨床検査技師長、渡代事務局長、三上総務課長、竹田財務課長兼経営企画担当課長、藤田医療課長、林医療計画係長		

4. 資料事前配布 有

5. 議事

院長より開会あいさつ

委員自己紹介

(1) 報告事項

市民病院の現状と課題について

病院職員より説明

(2) 協議事項

市民病院をより良くするための意見、方策について

委員

経理の状況についてお尋ねしたい。「その他の収益」について、令和6年度は、一般会計からの繰入金3億円とある。令和2年度の状況はどうであったのか。令和2年度に、繰入金3億円が入っていないとすれば赤字はもっと膨らんでいるのではないか。

病院職員

繰入金については、債務解消分として3億円繰入しているが、令和2年度では全く無かったということで、その差額が大きなところと考えている。現時点では、令和2年度と同規模の赤字を想定しているが今後の執行状況によりその辺の見込みは増減

するものと考えている。

委員

令和6年度の診療所の受診人数についてはどうか。

病院職員

1日平均、福浦診療所、高雄診療所で平均約6人、有年診療所で約12人である。

委員

症状の軽い入院に繋がらない救急患者を受入れても利益にならないのではないかと。収益を増やすためには、救急患者受入後、入院患者数や手術件数を増やす必要があるのではないかと。経営改善検証委員会には、素晴らしい人もたくさん入っているが、その中でどういった意見が出たのか。

病院職員

経営改善検証委員会での主なご意見としては、全体として医療スタッフが減っているということが患者数の減少に繋がって大変厳しい状況だという前提のもとで、やはり救急の関係で消防と情報交換をしっかりと行って、当院が救急で選択頂くような形を作っていくこと、紹介元の地域医療機関と連携をしていくこと、タスクシェア、タスクシフトによって職員のモチベーションにつなげることで、病院が何をしていくか、地域の中でどういった病院にしていくかといったところをもう一度考え直して経営について考えていくようにとの意見を頂いた。

院長

ご意見ありがとうございます。手術件数を増やすことは、収益増加のため重要だが、当院の状況を鑑みると手術器具等経費が高額であるため、投資分を回収できない。当院において可能な範囲で、できる手術をどんどん増やしていくべきと考える。救急に関しては、どんなに軽い症状の患者でも受入れていく。実際のところ、入院患者の半数は救急から入院される。軽い症状の患者に対しても診療していくといった普段からの努力が必要と考える。

委員

歯科に関してみると、経営の効率化のA、周術期口腔機能管理については、非常に大事なことであり、当該管理を一生懸命されていることは、良いことと考えている。ただ、周術期だけでなく、普通に入院されている患者の口腔内の衛生面についても、気を付けて頂きたい。そうすることで、誤嚥性肺炎や口腔からの全身疾患の予防にも繋がる。入院患者の口腔内の衛生面に力を入れることで、貴院と患者、両者がウィンウィンの関係になるのではないかと思います。

院長

ありがとうございました。厚労省の方からも最近の傾向として、高齢者の方でリハビリだけやっても駄目なのだということが言われており、やはり栄養の方がついていかないと、或いは口腔ケアの方に算定の要件がついているので、嚥下機能評価などを

含めて口腔ケアの方を進めていきたいと考える。

委員

開業医との関係構築及び病病連携・病診連携の推進について、病薬連携が入っていないことは非常に残念である。薬局に来られる患者から貴院の状況を尋ねられることがあるため、貴院は、大丈夫である、頑張っているといったことを伝えるためにも、情報提供頂きたい。そうすることで、ワンチームとしてご協力できると思うのでよろしく願います。

院長

ありがとうございました。確かに病薬連携、今後、大事になってくると思う。この3月に、当院の病薬連携の会議を開催しようと思うので、その際は是非よろしく願います。

委員

救急車で家族が運ばれる時に、躊躇なく貴院を選択すると思えるような病院にして頂きたい。家族や自分の命を守ってもらいたいと思えるような病院にして頂けるよう是非願います。

院長

ありがとうございます。

委員

経営状況について、令和2年度から令和6年度まで情報公開して頂いているが率直に患者数が減っている要因は何か。

病院職員

患者数の減少については、複合的な要因があり、はっきりとピンポイントでお答えすることは難しいところではあるが、まず、全国的にも患者数の減少がコロナ以降続いていることが大きな傾向である。また、当院においては、令和2年度以降スタッフ数が大きく減少し、ドクターの数も減っているため、診療を変更している診療科が多くある。また、地域別に見ると、市外患者数が大きく減少している。

委員

経営状況については、「下半期の対応方針」について、重点的に見るべきだと思う。頂いた資料では、市民の声を聞きたいのか、信頼を回復したいのか、病院としての方針がはっきりと分からない。市民からすれば、信頼がないという一言に尽きるかと思う。貴院では、救急外来を受入拒否されることがある。また、貴院では、午後診療を実施していることについて、しっかりと周知すべきである。市民の声を優先的に聞いて頂いて、その声を取組方針に落とし込んで頂ければ、それなりの効果が見込めるのではないかと思う。

院長

当院としては、良い医療を、患者様が望まれるような情報を粛々と提供していくとい

ったことに尽きると考える。午後診療や救急の断りについては、外来にしっかりと周知しておく。ありがとうございました。

委員

貴院では、災害発生時、どういった機能となるのか。また、透析患者への対応についてはどうか。

院長

防災対策については、自家発電で手術も続けられるよう電源を確保している。発災から3日間程度は、食事や電気を含め当院にて準備できるようにしている。透析患者については、来院して頂ければ、透析を行えるが、交通手段の確保に関しては、行政や消防と協力していきたい。また、被災状況にもよるが、赤穂市が震災に見舞われたとき、職員は病院に参集し、医療体制を継続するといった体制を取れるように職員には周知している。

委員

高齢化が進んでいるため、できるだけ近い病院で診療し、手に負えなければ中播磨方面の病院へ繋いでいけば良いと思う。院長が言われるように、コツコツと1つ1つやっていくことで良い病院にするということに繋がると思う。

院長

ありがとうございます。補足です。抗癌剤をされている方は、週に1回或いは月に1回通院が必要であるため、病院が遠方であると負担がかかる。その辺りの事を考えると、当院で可能な医療は継続的に提供していきたいと思うので是非ともよろしくお願ひします。

委員

経営状況の資料について、よく整理されていると思う。ただ、経営状況の取組方針についてであるが、具体的にどうするのかを検討頂いた上で、可視化、共有して頂ければ実効性のある取組みになると考える。取組みと成果の因果関係をシビアに追求して頂ければと思う。貴院のマイナスイメージを払拭するためにしっかりと取り組んでいることをもっと強烈に発信し、マイナスイメージを低減して頂きたい。

院長

ありがとうございます。今後も信頼に応えられるように、頑張っていきます。

事業管理者より閉会あいさつ